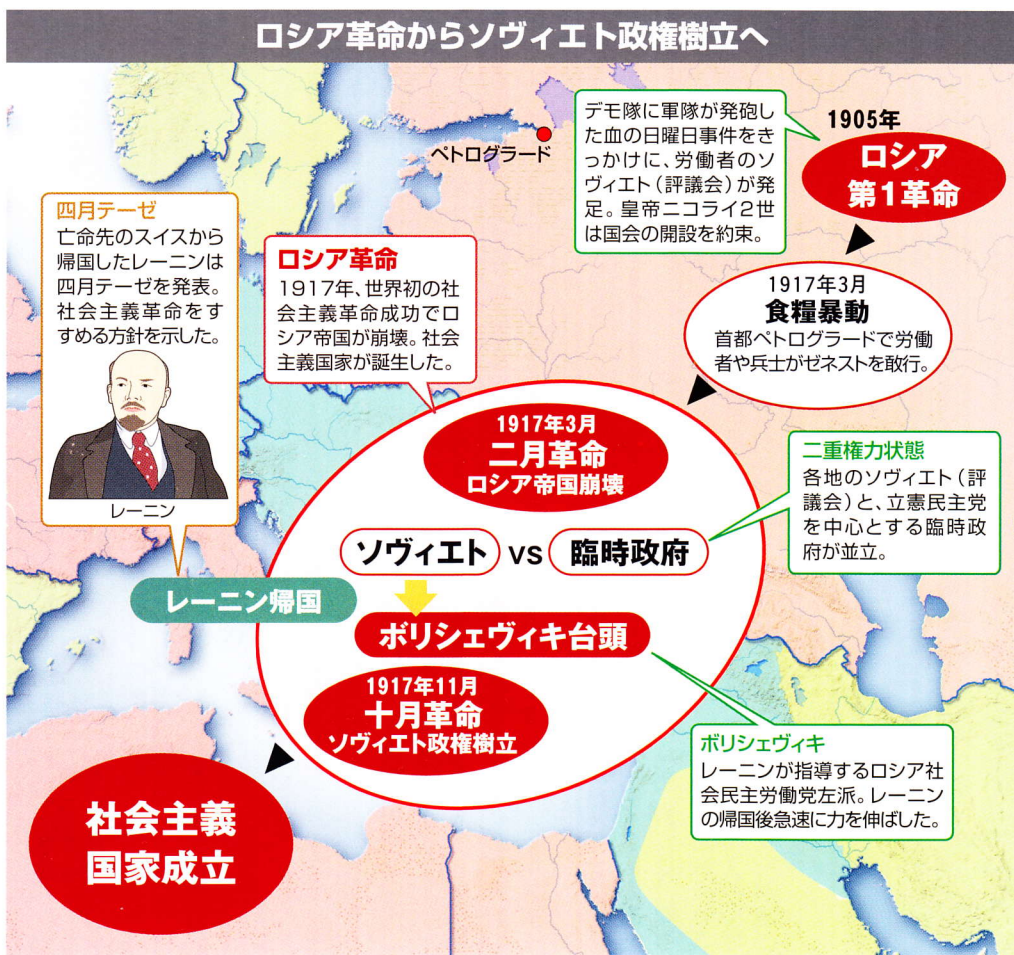


# ロシアで世界初の 社会主義革命成功



1917年、  
第一次世界大戦で疲弊したロシアで、  
革命による史上初の  
社会主義国家が誕生した。

## ロシア帝国を崩壊させた 二月革命とソヴィエト

1914年に第一次世界大戦が始まると、もともと経済的基盤の弱かったロシア帝国は深刻な食糧不足に陥った。17年3月(ロシアのユリウス暦では2月)、窮状に耐えかねた労働者が首都ペトログラードでゼネストを敢行、兵士たちもこのゼネストを支持した。ドゥーマ(国会)では立憲民主党を中心とした臨時政府が樹立された。

事態を收拾できなくなったニコライ2世は退位。この二月革命によりロシア帝国は崩壊した。ただし、各地でソヴィエト(評議会)が設置されるなど、国内は臨時政府とソヴィエトが対立する二重権力状態にあった。4月になると亡命先のスイスから帰国したレーニンが「四月テーゼ」を発表。「すべての権力をソヴィエトへ」と訴え、臨時政府との対決姿勢を明らかにした。

臨時政府は革命後も戦争を継続することを決定、社会革命党やメンシエヴィキ(ロシア社会民主労働党右派)を入閣させ、社会革命党のケレンスキーが首相に就任した。しかし、戦局が好転しないことから臨時政府の威信は低下。各地のソヴィエトでは当初から戦争に反対していたボリシェヴィキ(ロシア社会民主労働党左派)が勢力を伸ばしていった。

## 革命政権、大戦終結直前に ドイツと単独講和締結

1917年11月(ユリウス暦では10月)には、ボリシェヴィキ派の労働者や兵士がペトログラードで蜂起して臨時政府を倒し(十月革命)、ボリシェヴィキと社会革命党左派からなるソヴィエト政権を樹立した。レーニンを指導者とする新政府は、即時停戦と無併合・無賠償・民族自決の原則を訴えた「平和に関する布告」を發布。続いて地主の土地を没収する「土地に関する布告」を出した。さらに憲法制定議会の選挙を実施したが、農民を支持基盤とした社会革命党が第一党になるとレーニンは議会を解散、社会革命党左派も政権から追放し、ボリシェヴィキによる一党独裁体制を確立した。またその間に、ドイツとの単独講和に踏みきり、18年3月に多額の賠償支払い義務を負うブレスト=リトフスク条約を締結したが、同年11月に第一次世界大戦は終結した。

## レーニンの後継者争い

1924年1月にレーニンが死ぬと、「一国社会主義」を主張するスターリンと、世界革命の必要性を説くトロツキーとの間で対立が表面化した。同年5月の党大会で書記長留任が決定したスターリンは、その後トロツキーの権威失墜を謀り、独裁体制を確立していった。

なお、存命中のレーニンは、スターリンの後継者としての資質に疑問を抱き、遺書となった書簡のなかで、書記長更迭の必要性も述べていた。